

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

|         |             |            |
|---------|-------------|------------|
| 事業所番号   | 1990100149  |            |
| 法人名     | 社会福祉法人 清長会  |            |
| 事業所名    | しあわせホーム甲府   |            |
| 所在地     | 甲府市城東3-7-11 |            |
| 自己評価作成日 | 令和3年1月5日    | 評価結果市町村受理日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

|          |   |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | <a href="http://www.kaiakensaku.mhlw.go.jp/19/index.php">http://www.kaiakensaku.mhlw.go.jp/19/index.php</a> |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

|         |             |
|---------|-------------|
| 評価機関名   | 山梨県社会福祉協議会  |
| 所在地     | 甲府市北新1-2-12 |
| 聞き取り調査日 | 令和3年1月28日   |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の方々との関わりが多く持てるよう、ボランティアの受け入れを多く行事に取り入れ認知症の方の理解、認識をして頂いている。  
ホーム独自の歌や踊りを利用者様とともに考え、日々の機能訓練として行っている。  
また、日々の作品を作り上げる事に励み、日常生活に張りがあるように取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、甲府市東部に位置し鉄骨2階建てである。2階部分が1ユニットで、共有スペースは、光と風をコンセプトに設計されて、ゆとりがある空間となっている。管理者・職員は、理念である「夢と笑顔満ち溢れ一人ひとりが地域との関わりを持ち幸せを感じるホーム」を基本に常に利用者に関り、家族も感謝している。また、家族総会の折に行う行事には、お孫さんも参加をして良い関係を築いている。利用者の日々の生活や行事の様子をブログで配信している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果<br>↓該当するものに○印                              | 項目 | 取り組みの成果<br>↓該当するものに○印   |
|----|--|----|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる<br>(参考項目:23,24,25)     | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている<br>(参考項目:9,10,19)   |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある<br>(参考項目:18,38)           | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている<br>現状は(参考項目:2,20)                  |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている<br>(参考項目:38)                 | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている<br>(参考項目:4) |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている<br>(参考項目:36,37)   | 66 | 職員は、活き活きと働いている<br>(参考項目:11,12)                                      |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている<br>現状は(参考項目:49)             | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う                                       |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている<br>(参考項目:30,31)       | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う                                   |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている<br>(参考項目:28) |    |   |

自己評価および外部評価結果

事業所名: **しあわせホーム甲府**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己                 | 外部  | 項目   | 自己評価(実践状況)  |   | 外部評価              |  |
|--------------------|-----|--|---|---|-------------------|--|
|                    |     |  | ユニット名( )  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |  |
| <b>I. 理念に基づく運営</b> |     |  |   |   |                   |  |
| 1                  | (1) | ○理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている                             | 夢と笑顔に満ち溢れ一人ひとりが地域との関わりを持ちしあわせを感じるホームを理念とし共有、実践に繋げている。毎朝、機能訓練を兼ねた体操後の朝の会で職員と利用者が一緒に共同生活の場としての心がけ2項目を声に出して読み上げている。同時に理念も読み常に振り返る場としている    | 事業所独自の理念を所内に掲示し、朝礼時には、理念をコピーして利用者も管理者、職員と一緒に読み上げ確認をしている。利用者が一日を楽しく笑顔で過ごせる様に職員は、一人ひとりに挨拶や声掛けをして理念がケアに反映されている。また、利用者一人ひとりが、地域と関わりが持てるよう事業所と地域との関わりを大切にして、理念が実践につながるよう努めている。 |                   |  |
| 2                  | (2) | ○事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している                             | ボランティアは、フラダンス、絵手紙教室、大衆演劇、アニマルセラピー等多数来所している。また、甲府市の笑顔ふれあいサポーターの方も1組来所している。ボランティアを受け入れる為に、掲示板、知人や地域住民、法人内の施設を通し働きかけている。現在は、コロナにより中止としている。 | 地域住民の一員として、自治会に加入している。回覧板で情報を得て、年1回小学校の体育館で行われる文化祭には、牛乳パックのリサイクル作品や手芸等を出品して交流をしている。事業所の近くを散歩時や事業所1階の入り口の椅子に腰かけて通る人と挨拶を交わす等日常的に交流をしている。                                    |                   |  |
| 3                  |     | ○事業所の力を活かした地域貢献<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている                           | 地域の方によるボランティアや運営推進会議、防災訓練等の協力を通じ、事業所の運営や認知症の方との共存を理解し、支援して頂いている。  |   |                   |  |
| 4                  | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている        | 2か月に1回、定期的な会議を開催し、利用者、地域代表、包括職員、利用者家族代表、有識者の参加により、第三者からの意見を頂き、サービスの向上に活かす事が出来ている。事業状況や外部評価の結果を報告しており、評価の課題に取り組み実施している。                  | コロナ禍であるためソーシャルディスタンスを取りながら、会議を2か月に1回実施している。会議の中では、コロナの取り組みや身体拘束のケアについての意見があり、事業所の取り組み等を話し合う機会となっている。また、サービス評価については、評価結果を報告し意見をもらう様にしている。                                  |                   |  |
| 5                  | (4) | ○市町村との連携<br>市町村担当者と同様から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる                  | 市役所や甲府市地域包括へ事業所の状況の報告を行いながら、協力関係を築いている。市へ推進会議や事業状況を持参したり、しあわせ便りを郵送して協力関係を築けるよう心掛けている。   | 市の担当者には、運営推進会議録や事業所状況の報告をしている。現在は、コロナの対応について、事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝えながら相談に乗ってもらい、担当者と情報を共有し連携を深めている。  |                   |  |
| 6                  | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践<br>代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束委員会を中心とし、研修会への参加や会議等の取り組みの確認を周知徹底する場を設けている。不適切な言葉遣いは、後で1対1で話し合い、会議で再確認をして共有している。気持ちが不安定な時は家族に連絡したり、一緒に外出する等の対応を工夫している。              | 事業所に身体拘束委員会があり2か月に1回開催し、基本的には全職員が参加して、スピーチロックや事例を兼ねて話し合っている。また、グループ全体の勉強会に参加し、事業所内の全職員で共有している。日常生活の中から、利用者一人ひとりのくせや傾向をつかんで、声掛けや見守りを行っている。                                 |                   |  |
| 7                  |     | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている          | 施設内の研修の参加により、知識を持ち、職員会議にて報告を行い、一人ひとりが注意し虐待防止に努めている。   |   |                   |  |
| 8                  |     | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している   | 外部研修参加や施設内研修を行い、職員全体で情報を共有しながら学び、積極的に研修会への参加もしている。  |   |                   |  |
| 9                  |     | ○契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている                        | 入所時、本人家族を含め契約内容、重要事項説明を行い利用について理解して頂いたら署名、捺印を頂いている。   |   |                   |  |

自己評価および外部評価結果

事業所名: **しあわせホーム甲府**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己                          | 外部  | 項目  | 自己評価(実践状況)   |   | 外部評価 |                   |
|-----------------------------|-----|---|--|---|------|-------------------|
|                             |     |   | ユニット名( )   | 実践状況  | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 10                          | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている                    | 家族会総会において、定期的に家族との意見、要望を伺う機会を作り、ホール内にも無記名のアンケートを設置し、家族や第三者からの意見を掲示板に掲載する事により、運営、ケアに反映させている。直接相談も受け付けている。家族の来所時や、家族会で意見が出ている。 | 家族には手紙や家族総会など常に問いかけ、何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意している。行事の様子をブログで伝えていたが、日々の生活の様子も発信して欲しいとの事に対応している。また、利用者の思いに沿い、コロナ禍であっても出来る限り外気に触れるように散歩に行くなど、サービスの質の確保・向上につなげている。 |      |                   |
| 11                          | (7) | ○運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている                                     | 常に相談、意見のできる環境作りに努め、毎日実施している。職員会議やリーダー会議にて反映させている。各職員が行事や委員会の担当を受け持っており会議時はそれぞれの問題点や提案を出し話し合いをしているので意見が出やすい。                  | 管理者は、ミーティングや毎日の報告時に意見を聞く様に努めている。利用者の食事介助で誤嚥の無い様に話し会ったり、風呂場の手すり、衣類の分類かごの購入等意見が出された。また、職員の急用時などの勤務体制について、要望が出され反映されて働く意欲につなげている。                              |      |                   |
| 12                          | ○   | 就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている      | 人事考課等の個別面談を行い、各自が向上心を持てる様適材適所を見極め、役割を持ってもらう。働きやすい職場を目指し常に相談する機会を設け定期的な親睦会を実施している。  |   |      |                   |
| 13                          | ○   | 職員を育てる取り組み<br>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている         | 法人内での新任研修や事業所内での研修、勉強会にも参加し、サービス向上に努めている。外部研修も、職員会議で報告、共有を図っている。   |   |      |                   |
| 14                          | ○   | 同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 法人内で連携を図り、利用者と関わりながら、職員と共に交流会を実施。又他施設の見学や交流会等実施している。   |   |      |                   |
| <b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> |     |   |  |   |      |                   |
| 15                          | ○   | 初期に築く本人との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている           | 入所前に必ず面接と事業への見学の実施をしている。事前に情報を聞き要望や不安を職員が理解した上で入所出来るよう心掛けている。  |   |      |                   |
| 16                          | ○   | 初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている                      | 施設見学や入所後の様子説明を通し、家族の意向を聞ける環境を作り、入所後もこまめに連絡を取り信頼関係が持てる様努めている。   |   |      |                   |
| 17                          | ○   | 初期対応の見極めと支援<br>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている                  | 利用者と家族の意向を十分に聞き、他サービスも含めた利用の説明を十分に行い、様々な選択肢の中より意向に沿った情報提供を行っている。   |   |      |                   |
| 18                          | ○   | 本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている                                  | 1人ひとりの人格を尊重し共に生活する中で、お互いの時間、生活を大切にしたい共存が出来よう努めている。   |   |      |                   |

自己評価および外部評価結果

事業所名: **しあわせホーム甲府**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己                                 | 外部   | 項目   | 自己評価(実践状況)   |   | 外部評価 |                   |
|------------------------------------|------|--|--|---|------|-------------------|
|                                    |      |  | ユニット名( )   | 実践状況  | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 19                                 |      | ○本人を共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている                           | 利用者の状況をこまめに報告、相談する事により家族の協力、又家族の意向で支援していけるよう努めている。   |   |      |                   |
| 20                                 | (8)  | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている                                       | 入所により知人との関係が途切れる事の無いようにいつでも気軽に訪ねて来れるよう環境作りを努めている。又、本人が気軽に会いたい方への連絡等もご家族の協力を得て実施している。美容室は家族の対応であるが、地域の美容室に来てもらい、利用する事で地域との関係が築けている。     | 入居時に利用者に関する情報を家族から得ている。馴染みの友人に絵手紙や暑中見舞いを出したり、今年、丑年のため消しゴムでスタンプを作り、年賀状を出すなど継続的な支援を行なっている。また、事業所に地域の美容室から2か月に1回訪問していただき、地域社会との関わりを継続している。     |      |                   |
| 21                                 |      | ○利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている                                   | 日頃の生活の中で、協力し作り上げる作業を取り入れ親睦が深められるような工夫をしている。又、席や居室の移動も相談の元実施している。   |   |      |                   |
| 22                                 |      | ○関係を断ち切らない取組み<br>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている                     | 退所時にサービス終了後も変わらず相談を受け付けられる事をお伝えし継続的に関わりが持てる様支援している。  |   |      |                   |
| <b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> |      |  |  |   |      |                   |
| 23                                 | (9)  | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している   | ケアプラン作成時には、本人家族に意向を確認しケアプランに反映させている。日々の生活でも個々の意向を聞き、把握に努めている。  | 入居に当たって、家族やケアマネジャーから思いや生活に関する意向を聞いている。日々の行動や表情からくみ取り、「週に1回は散歩をしたい」、「入浴を毎日したい」、「食事の好み」等を把握して支援している。また、思いや意向の把握が困難であった場合も話し会って対応している。         |      |                   |
| 24                                 |      | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている                                       | 入所時の面接において本人と家族に意向を確認し、プランに反映させている。日々の生活でも個々の意見を聞き把握に努めている。  |   |      |                   |
| 25                                 |      | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている   | 個々の生活リズム、身体状況に合わせて残存機能を活かした機能訓練、生活リハビリ体操等を実施している。  |   |      |                   |
| 26                                 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ケアマネが中心となり、本人、家族、主治医、職員より意見を持ち寄り、ケアプランを作成している。家族と利用者との話を基にプランを作り、契約時に担当者会議で確認をしてケアプランを作成している。モニタリングは日々の記録や職員の気づきを記入して1年に1回の見直しに反映している。 | 本人がより良く暮らすための課題やケアのありかたについて、本人・関係者と話し合い介護計画を作成している。担当者会議では、利用者が地域でその人らしく暮らし続ける様に、アセスメントを含め、職員全員でアセスメントやモニタリングを繰り返して行い、現状に即した介護計画の見直しを行っている。 |      |                   |
| 27                                 |      | ○個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている                        | ケアプランに沿った形で毎日個人ファイルに記録を記載し、職員間の情報共有を行っている。特記がある場合は色を変え記入し、ケースシートで共有し、統一したケアに努めている。   |   |      |                   |

自己評価および外部評価結果

事業所名: **しあわせホーム甲府**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己                               | 外部   | 項目   | 自己評価(実践状況)  |  | 外部評価 |                   |
|----------------------------------|------|--|---|--|------|-------------------|
|                                  |      |  | ユニット名( )  | 実践状況   | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 28                               |      | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化<br>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる                           | 同法人内に特養、ショートステイ、デイサービス、居宅介護支援事業所がある為、連携を図りながら本人家族が状況に応じた柔軟な対応に努めている。  |  |      |                   |
| 29                               |      | ○地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している                                     | 積極的にボランティアの受け入れを行っており、多くの方が来所し、日々の活力、楽しみに繋げている。文化祭等色々なイベントにも参加して事業所のPRを行っている。   |  |      |                   |
| 30                               | (11) | ○かかりつけ医の受診支援<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している                                | 入所時に主治医を変更するのではなく、本人の病状や家族の希望に沿い、事業所の状況として受診連絡票を作成し、主治医との関わりを維持、継続していけるよう連携を図っている。事業所の月1回の往診や必要に応じて、歯科医、皮膚科、眼科の関係も保持している。     | 本人や家族の希望に沿い、入居前のかかりつけ医や事業所の往診医を希望して定期受診をしている。かかりつけ医の受診時は、状況説明用紙に必要事項を記入し家族に渡し受診している。投薬については、処方箋をもらってくれば、地域の薬剤師と連携しているため、事業所に直接届けてくれる。認知症の専門医との連携をしている。 |      |                   |
| 31                               |      | ○看護職との協働<br>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している                         | 往診看護師やかかりつけ看護師と情報を共有しながら、生活、身体状況の支援に努め、必要に応じて相談、助言を頂いている。   |  |      |                   |
| 32                               |      | ○入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | 入院先に出向き、本人の状況確認をし、医師・看護師・ケースワーカーからの意見、情報交換しながら家族を含め相談し、早期退院できるよう努めている。  |  |      |                   |
| 33                               | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入所契約時に重度化や終末期に向けた方向として同法人の特養申し込みを案内させて頂いたり、家族会を通じて事業所の方針と事業所で出来る事の説明をさせて頂き、随時状況変化に対応出来るよう連絡を行っている。                            | 重度化や終末期の対応については、入居時に説明を行っている。医療行為が必要になった場合を踏まえて、家族と相談し同法人内の事業所への申し込みについて話をしている。今後、重度化や終末期に向けて、往診医・看護師・関係者と医療連携体制を整えて、対応出来るように検討中である。                   |      |                   |
| 34                               |      | ○急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている   | 急変マニュアルを活用し対応を行っている。利用者名簿、職員連絡網の活用、ヒヤリハット、インシデントレポートの活用も、事故防止委員会が中心となり対応、対策を検討している。   |  |      |                   |
| 35                               | (13) | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている   | 定期的避難訓練を実施し、地域住民に協力員になって頂き、災害時、緊急の協力を依頼、要望し避難訓練も行っている。避難場所が決めているので、外出の際には毎回話をし意識づけをしている。                                      | 管理者は、法人の防災計画を把握して、3か月に1回防災訓練(震災・水害)を行い、消防署へ報告をしている。訓練の結果は報告書と共に、職員と振り返りを行い、備蓄品の管理もしている。また、運営推進会議の中で、防災について話し合い、地域の防災訓練に利用者と一緒に参加し、地域との協力体制を築いている。      |      |                   |
| <b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> |      |  |   |  |      |                   |
| 36                               | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている   | 人格を尊重する為に、認知症利用者に対する1人ひとりのケアを重視し、職員会議や施設内の勉強会を通じ、プライバシーを損ねない言葉掛けの統一も検討し対応を行っている利用者間でも傷つける事は言わない様に心掛ける事を毎日皆で読み上げて意識出来るようにしている。 | 身体拘束委員会があり、スピーチロック等の勉強会をしている。職員は、自己決定しやすい言葉かけやトイレでは、ドアを閉めてから等プライバシーを損ねないよう配慮し、日常生活の中で利用者一人ひとりの性格や状況に合わせた対応をしている。                                       |      |                   |

自己評価および外部評価結果

事業所名: **しあわせホーム甲府**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部   | 項目   | 自己評価(実践状況) |  | 外部評価              |  |
|----|------|--|------------|--|-------------------|--|
|    |      |  | ユニット名( )   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |  |
| 37 |      | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている                     |            | 三ヶ月に一回友人会を開催する等利用者の想いを傾聴し、見守りながらその能力を見極め、自己決定できるよう選択肢を多く持てる様支援する。  |                   |  |
| 38 |      | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している |            | 1人1人のペースを大切にす為にも、無理強制せずレベル低下に注意しその時その時の本人の希望に沿ったケアを支援している。   |                   |  |
| 39 |      | ○身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している                                  |            | 入浴時の洋服の準備は出来る限り本人と一緒にし、身だしなみやおしゃれを自己決定して頂いている。必要に応じ家族にも協力して頂き、化粧品を持ってきて頂いている。外出する際は、希望によりお化粧をして出かけられるように支援している。    |                   |  |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている     |            | 職員がメニューを作り、近くのスーパーに利用者と共に食材の買い出しに行っている。食事作りから食器の片付けまで利用者ができるところを一緒にしている。食事前には嚥下体操を行っており、定期的に嗜好調査を行い、希望で外食も取り入れている。 |                   | 利用者の嗜好調査を年2回行い、職員が献立や食材の買い物をする。朝は、納豆を食べたい・パンを食べたい等、要望が出る。パン屋が隣なので9の付く日には、利用者と一緒に買いに行っている。お楽しみ食事があり、さつまいもご飯や恵方巻き等で季節を楽しんでいる。                |
| 41 |      | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている          |            | 1人1人の食事量、水分量を把握し毎食ごとに摂取量のチェックを記録し、栄養のバランスの確認を行っている。摂取ペースも各々違う為、「ごちそうさま」は統一せず本人の状況に合わせてケアを行っている。                    |                   |  |
| 42 |      | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている                   |            | 起床時及び食後に口腔ケアを実施し、残存機能を活かしながら仕上げ確認を職員側で援助している。また歯科往診の際、歯科医よりアドバイスを頂き、口腔内の衛生保持に努めている。                                |                   |  |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている   |            | 排泄パターンを職員全員で把握し、1人1人の状態に合わせた方法で排便を促し、失禁に繋がらないような支援を行っている。介助支援の方は、排泄パターンを把握して時間を見ながら声掛けをしている。トイレの中に注意事項を書いた紙を貼っている。 |                   | 排泄チェック表を使用し、午前・午後・夜間と時間帯で対応している。自立の利用者は、3人いて自由にトイレに行っているが、排便等その時々トイレで排泄できるよう支援している。現在、パット類も日中・夜間帯と本人に合わせて対応し、おむつ使用の利用者はおらず、自立に向けた支援を行っている。 |
| 44 |      | ○便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる                   |            | 排便チェックを行いながら、個々の排便状況を把握し、1人1人に合わせた排便が出来る時間や、環境を提供し定期的な運動を取り入れ、水分補給での工夫を行いながら、便秘予防に努めている。また、                        |                   |  |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている  |            | 健康状態を考慮した上で、利用者の希望やタイミングに合わせて入浴を支援している。1人ずつの対応で行っている。  |                   | 基本的に1階にある個浴には、週2回午前中としているが、利用者のその日の希望で、午後入浴する事もある。入浴拒否された場合は、職員を変えたり声かけを工夫して対応している。同性介護の希望もあり、個々に沿った支援をしている。                               |

自己評価および外部評価結果

事業所名: **しあわせホーム甲府**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部   | 項目   | 自己評価(実践状況)   |  | 外部評価 |                   |
|----|------|--|--|--|------|-------------------|
|    |      |  | ユニット名( )   | 実践状況   | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 46 |      | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している  | 個々の生活パターンを理解し、利用者のペースで入眠を促すよう支援している。状況に応じ、職員と過ごし、安眠が出来るような環境も提供している。日中も本人の希望により、昼寝をして休息出来る様にしている。  |  |      |                   |
| 47 |      | ○服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている   | 医療関係書類は1冊にまとめ、職員が常に服薬について把握出来る様になっている。薬の変更については、確認ノートの活用や、申し送りにて2重確認を行いながら、症状変化については記録と申し送りを行う。又、家族にも適宜報告を行っている。服薬ミスを防ぐ為、チェック表も活用している。                 |  |      |                   |
| 48 |      | ○役割、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている  | 日々の役割や、身体状況を見極め、状態を勘案しながら出来る事の支援を考慮し、生活パターンが同じにならないようメリハリをつけて支援している。   |  |      |                   |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している                      | 季節ごとの外出、個別外出を取り入れ、出来るだけ本人の希望に沿った支援が行えるよう心掛けている。年間行事の中の家族参加の日帰り旅行や、お花見に出かけたり日常的には、食材の買い出しに行っている。暖かい日には出来るだけ外気に当たれるよう支援している。また家族にもしあわせ便りやブログなどでお知らせしている。 | 近所を散歩したり、隣接しているパン屋に買い物に行く等、日常的に行っている。時には、職員と一緒にごみ出しに行つて、戸外に出るよう努めている。また、居室の窓を開けて、外の景色を見て季節を感じたり、車いすの利用者も一緒に1階に出て、短時間でも外気に触れる機会を作っている。                |      |                   |
| 50 |      | ○お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している  | 入所時にお金の管理について利用者、家族に十分に説明を行い、紛失や盗難防止の為にも1人1人の財布を預かり、おこずかい帳の活用を家族にも確認して頂き、管理を行っている。必要に応じて買い物出来るよう環境を整えている。  |  |      |                   |
| 51 |      | ○電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている   | 電話の取次ぎ、掛ける等の援助は常時出来る様になっている。手紙のやり取りも束縛なく行え、絵手紙教室の作品を家族に送る等援助している。  |  |      |                   |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節を感じられるよう利用者を中心とした、月間カレンダーや手作りの作品をフロア共有スペースに飾り利用者同士談話出来るようソファの設置も提供している。また、行事やレクリエーションの写真を掲示し、明るく居心地の良い雰囲気作りに努めている。                                   | 対面式のキッチンとフロアが一体となっており、調理する様子や匂いを感じる事ができる。また、光の刺激が認知症の人のストレスになることも多く、間接的な光が入るように天幕で工夫している。中央に置かれたダイニングテーブルでくつろぎ、住み慣れた家にいるように努めている。                    |      |                   |
| 53 |      | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている  | 長椅子ソファを設置、活用したり席も譲り合えるような環境作りを行っている。   |  |      |                   |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている  | 入所時に利用者と家族と相談し、本人が安心、安全に生活出来るような好みの物を取り入れ、環境変化をあまり感じないように配慮している。   | 居室は、洋室でベッド・エアコン・カーテン・クローゼットが備え付けられている。テレビを見たりラジオを聞いている利用者もいる。部屋には、家族写真や気に入ったカレンダーの写真や切った貼ってある。クローゼットの中は、職員の気づきで衣類をかごに入れて取り易く、利用者が、居心地良く過ごせる様に工夫している。 |      |                   |
| 55 |      | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している   | 1人1人の能力を活かしながら、その人らしい生活が送れる様安全に配慮している。またヒヤリハット・インシデントレポートを活用し未然に防げるよう話し合いを行っている。   |  |      |                   |